

## 教会の春・夏・秋・冬・・・受難週～イースター

キリスト教会では、今、“レント”(受難節)という期間に入っています。イエス・キリストが十字架の苦しみを受けられたことを覚えつつ、悔い改めの心をもって過ごす期間です。罪のない神の子キリストは、当時のユダヤの指導者たちの妬みを買って、捕らえられ、鞭打たれ、ついに十字架に磔(はりつけ)にされて死なれました。しかし、それは、私たちが罪から贖う身代わりの死だったのです。キリストは死んで墓に葬られましたが、そのままおしまいにはならず、三日目に復活されました。それがイースターです。今年のイースターは4月4日。キリストが死の闇を打ち破って、墓からよみがえられたことによって、私たちは死の恐れから解放されました。ハレルヤ!



### 賛美歌誕生秘話「<sup>ちしお</sup>血潮したたる」

キリストの復活を記念する日、イースターは、今や多くの人々に知られるようになりました。しかし、イースターの前にキリストの受難があったことは、まだまだ知られていません。教会では、イースターの直前の一週間を受難週、直前の46日間をレント(受難節)と言います。キリストが十字架にかかって苦しまれたことを覚え、十字架によって私たちの魂の救いが完成したことを感謝します。「血潮したたる」は、この期間よく歌われる賛美歌の一つです。バッハのマタイ受難曲“受難のコラール”の旋律に乗せて、静かに歌われます。

この賛美歌は、17世紀のドイツ人賛美歌作者パウル・ゲルハルトが、ラテン語の詩を訳し、歌詞として発表したものです。三十年戦争の直後で、国が荒廃していた時代です。ゲルハルトの人生も、戦争によって大きく狂い、困難を極めていました。とりわけ、ようやく授かった子どもを、わずか数ヶ月で失うという絶望は、筆舌に尽くしがたいものがありました。「血潮したたる」の歌詞が生み出されたのは、彼がまさにその絶望の淵にいたときでした。彼は、自らの苦しみと悲しみの中に、十字架にかかれたキリストの姿を見たのです。キリストが十字架の上で味わってくださった苦しみは、私たちのためのものでした。彼の苦しみから生み出された賛美歌「血潮したたる」は、時代を超えて、この十字架の意味を私たちに伝えてくれているのです。

### イースター礼拝のお知らせ

4/4(日)

①9:30～10:30am

②11:00～12:00am

復活されたイエス・キリストを  
記念して礼拝をささげます。  
どなたでもお越しください。  
聖歌隊の賛美があります。  
(感染拡大防止に注意して行います。)

1. 血潮したたる 主の御頭<sup>みかしら</sup>  
とげに刺されし 主の御頭  
悩みと恥に やつれし主を<sup>あお</sup>  
われはかしこみ 君と仰ぐ
2. 主の苦しみは わがためなり<sup>つみびと</sup>  
われは死ぬべき 罪人なり  
かかるわが身に 代わりまし  
主の御心は<sup>みこころ</sup> いとかしこし
3. 懐かしき主よ 計り知れぬ<sup>なつ</sup>  
十字架の愛に<sup>たま</sup> いかに応えん<sup>こた</sup>  
この身と魂を 永遠まで<sup>とこしえ</sup>  
わが主のものと なさせ給え<sup>たま</sup>
4. 主よ 主の許に<sup>もと</sup> 帰る日まで  
十字架の影に<sup>みかお</sup> 立たせ給え<sup>みて</sup>  
御顔を仰ぎ 御手によらば  
いまわの息も 安けくあらん

## 宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル(聖書のお話)

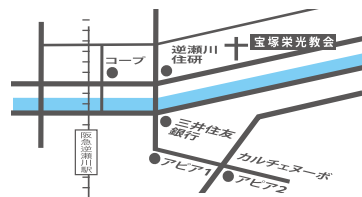
0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。  
ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30～10:30

第二部 11:00～12:00



教会HP



礼拝動画



### 御翼の陰にかくまってくくださる主.....

私たちは、毎日の生活を営んでいる中で、困難にぶつかったり、試みの中を通らされたりすることがあります。時には、思い当たる節もないのに、人から中傷されて、心が傷つくというようなこともあります。そんなとき、私たちは誰に訴えたらいいのでしょうか。どこに悩みを持っていけばいいのでしょうか。誰が私たちを救い出してくれるのでしょうか。

聖書にこうあります。「瞳(ひとみ)のように私を守り、御翼(みつばさ)の陰にかくまってください。」(詩篇17篇8節)

体の中で目の瞳は、とても大切な働きをします。ですから、神様は人を創造されるときに、まぶたで覆ったり、涙で潤したりして、瞳がいつも守られるように創られました。神様は、私たちを瞳のように守られます。また、私たちを御翼の陰にかくまうようにして守られます。

山火事後始末をしていた人が、黒焦げになった山鳩の翼の下から瀕死の雛(ひな)を見つけ、助けたという話を聞いたことがあります。親鳥は、自分の体を犠牲にしてまで、

わが子を炎から守ったのです。

神様も、私たちに対してそのようにしてくださいました。私たちは、傲慢で、強情で、自己中心の塊のような者です。妬み深く、愛のない冷淡な者です。心が神様から離れてしまっているからです。それが私たちの罪です。そのままでは確実に滅びます。

そのような私たちを神様は哀れに思い、私たちのために、ご自分のひとり子キリストを十字架に犠牲として献(ささ)げてくださいました。私たちは、罪を悔い改め、キリストの十字架を信じるだけで、罪が赦され、滅びから免れさせられます。

この救いをいただいて、私たちは平安を得ることができます。ひとり子を惜しみなく献げてくださいました神様は、私たちが試練や困難によってつぶされてしまうことをお許しになりません。真実に私たちを守ってくださいます。まず自分の魂が、罪から救われる恵みをいただきます。そして、御翼の陰にかくまって私たちを守ってくださる神様に、心から信頼していきましょう。





「 ロウバイ ー春を呼ぶ花ー 」

日増しに 窓の外が明るくなってきたように思う

時折 寒さがぶり返す日があっても

春が近づいているのがわかる

そんな太陽のまなざしに 心が和む

きまぐれ気温に誘われて 首を延ばした草花が

思わぬ寒気に震えている姿には

もう少しだよ 頑張っていてね と声をかける

春を呼ぶ花と言われる ロウバイも

少しうつむきかげんに咲いている

澄んだ芳香が ほのかに漂ってくる

花は 黄色いロウ細工のようで 透明感のある花びらだ

丸い コロンとした蕾も 次々に咲いてくるだろう

同じ春の花の ウメやサクラと比較すると

小ぶりで 目立たないが やさしい趣きがある

豊かな美しい春の先ぶれに 心が弾んでくる

娘シオンよ 大いに踊れ

娘エルサレムよ 歓呼の声をあげよ

見よ あなたの王が来る

ゼカリヤ9章（聖書）